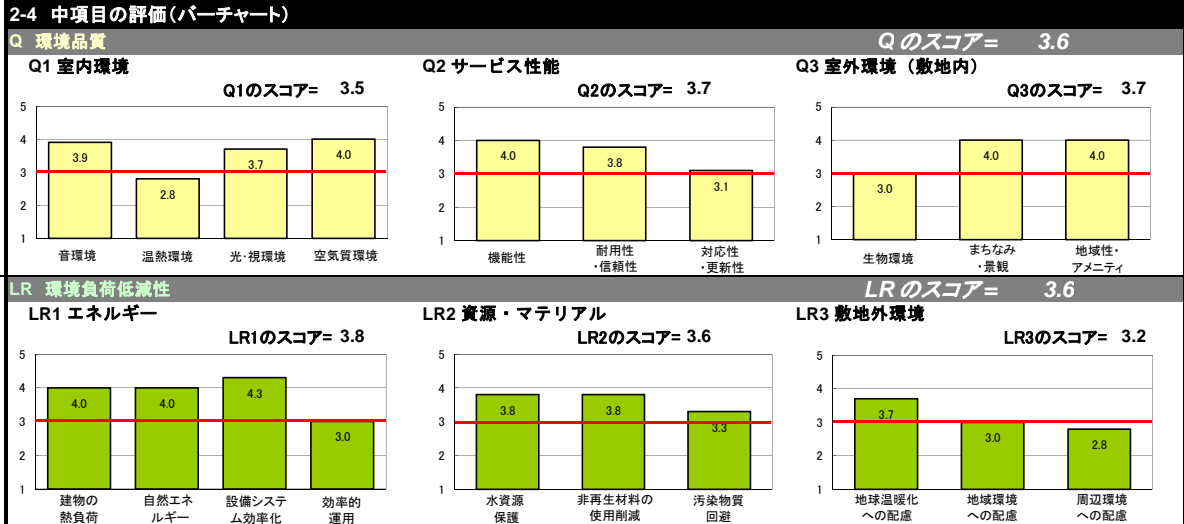
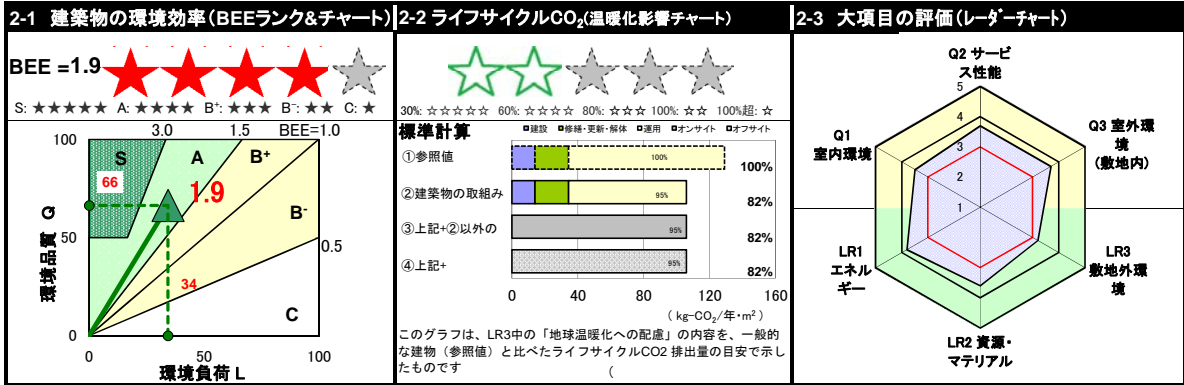


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明治用水会館 改築工事	階数	地上3F
建設地	愛知県安城市大東町1450-2、1509	構造	SRC造
用途地域	地域指定なし/第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	108人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2014年1月14日
敷地面積	7,363.64 m <sup>2</sup>	作成者	大建設 土田
建築面積	1,078.25 m <sup>2</sup>	確認日	2014年1月14日
延床面積	2,320.40 m <sup>2</sup>	確認者	大建設 土田



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>14.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>5.5 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	14.3 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	5.5 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	14.3 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	5.5 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>内装の腰壁に間伐材を利用している。</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	単独自基準	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
2 防音騒音対策										
2.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
5 湿度・湿度制御										
6 湿度制御										
7 換気・空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 照明器具のグレア										
2 昼光制御										
3 視覚的対策										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
2 化学汚染物質										
3 化学汚染物質										
4 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4 換気設備										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
3 維持管理業務										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性				3.8	0.19			
1 空調・換気設備		②	停電時に運転可能な空調機あり	4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備			雨水利用	4.0	0.20			
3 電気設備			非常用発電機設置	4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備			空配管設置	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.1	0.29			3.1
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			
1 階高のゆとり		②	階高4m以上	5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.113	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.21			
2 給排水管の更新性				3.0	0.21			
3 電気配線の更新性				3.0	0.14			
4 通信配線の更新性				3.0	0.14			
5 設備機器の更新性				3.0	0.29			
6 バックアップスペース				-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			3.7
1 生物環境の保全と創出	●	③		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④	外壁にレンガ調のタイルを施工し周辺風景に配慮。	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30			4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④	建物外周部の空間を多く確保し、水壁等を配置しまちなみに配	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.6
LR1 エネルギー				-	0.40			3.8
1 建物の熱負荷抑制			外皮ポイント142	4.0	0.30			4.0
2 自然エネルギー利用				4.0	0.20			4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			ハイサイドライトより採光換気を確保する。	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用			地中熱利用ヒートポンプ空調	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			ERR=22.7%	4.3	0.30			4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価			ERR=22.7%	4.0				
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング				-	-			
4.2 運用管理体制				3.0	1.00			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.6
1 水資源保護				3.8	0.15			3.8
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			雨水利用設備の導入	4.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用		②		3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		内部床:磁器質タイル、天井:集成材ルーバー、和室:障子・襖紙	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体と仕上材は容易に分別可能とする。	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を使用。	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		①	燃焼機器を使用しておらず、CO2の発生源はほとんど無し。	3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用しておらず、CO2の発生源はほとんど無し。	3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●		雨水を中水として利用。表面貯留し雨水排水の負荷軽減に寄与。	4.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		自転車置場を設置している。	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33			2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害、日照障害の抑制				1.6	0.40			
1 風害の抑制				1.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				5.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			LED外灯の採用	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			外壁にレンガ調のタイルを採用し、光の反射を抑える。	5.0	0.30			

**重点項目スコアシート**  
**明治用水会館 改築工事**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち(2011年度版)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011v.1.2\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>3.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>土地改良区域内の広大な農村・都市を支える「命の水」を守り継ぐ組合員にとって「良好な資産」となる新会館づくり、良好な資産として、時代の流れに左右されない「普遍性」を備えた新会館の実現。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い庇(バルコニー)や二重屋根により日射熱負荷を抑制を図り、快適な室内環境を実現する計画とした。</li> <li>・ライトシェルフ(庇)の活用し、自然採光を効率よく室内に取り込むことを図った。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてOAフロアを採用するなど機能性の向上に努めた。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物周囲では雨水貯留(表面貯留)を行い、雨水流出の増大に配慮。また雨水を貯留し、中水として活用する計画とした。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁及び屋根面の断熱化を図り、熱負荷の低減及び省エネルギー性の向上を図った。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水型衛生器具の採用等省資源化を図る計画とした。</li> <li>・全ての材料を有害物質を含まないF☆☆☆☆とした。</li> <li>・壁面緑化や再生木、間伐材を採用し環境保全に優れた仕上げ材料の採用。</li> <li>・ポアホールを利用した地中熱空調の採用 ・雨水の利用。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>改築前の建物とほぼ同程度の規模の改築計画とし、周辺に与える更なる影響を最小限に抑えている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>